

第 2 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 読書部会 会議録

会議名	第 2 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 読書部会
事務局	地域のちから推進部中央図書館
開催年月日	令和 7 年 8 月 22 日（金）
開催時間	13 時 58 分～16 時 04 分
開催場所	学びピア 21 5 階 研修室 1
出席者 （敬称略、順 不同）	原田隆史（八洲学園大学 教授）／川村みこと（足立区議会議員）／高祖常子（子育てアドバイザー／キャリアコンサルタント）／長沖竜二（図書館総合展運営委員会 事務局長）／中野理紗（区民（公募））／古瀬清美（区民（公募）） 大久保中央図書館長・3 分野連携担当課長／河合図書館サービスデザイン担当課長／齋藤生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当／鶴殿管理係長／兼平管理係主査／河野管理係主任／原システム運用係長／島澤資料選定係長／坂上図書案内係長／福澤読書活動推進係長／大垣図書館サービスデザイン担当係長
欠席者	田口委員
会議次第	別紙のとおり
資料	資料 1 第 1 回読書部会における主な意見及び今後の方針 資料 2 読書部会 評価集約結果 資料 3 足立区読書活動推進計画 施策評価シート（案） 資料 4 区民アンケート 新旧対照表 資料 5 区民アンケート調査票（16 歳以上用）（案） 資料 6 区民アンケート調査票（小 5・中 1 用）（案）
その他	傍聴者なし

(審議経過)

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

皆さん、こんにちは。まだお時間前ではあるのですが、皆様お集まりになりましたので、ただいまから、第2回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会読書部会を開催させていただきます。本日は、お忙しい中、本部会へご出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、本部会の事務局を務めさせていただきます、地域のちから推進部中央図書館長の久保でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

以降、着座にて失礼いたします。

まず初めに、4点ご連絡をさせていただきます。

本部会は、足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第6条第2項に基づき、過半数の部会委員のご出席により成立いたします。本日は、田口委員1名がご欠席でございますけれども、定数の7名に対して過半数の6名の委員にご出席いただいておりますので、部会が成立していることをご報告させていただきます。

次に、本部会は条例で公開を原則としておりますため、会議録につきましてはホームページ等で公開させていただきます。会議録を正確に作成するため、皆様のご発言を録音させていただいております。また、記録のため写真撮影をさせていただく場合がございますので、併せてご了承ください。

3点目になります。次第に入りましたら、ご発言の際には、最初に委員名をおっしゃっていただいからご発言をお願いいたします。

最後のご案内になります。本日の資料につきましてご案内いたします。本日の資料は、次第の表面に記載のとおりとなりまして、資料1から資料6まで多くの資料がございます。順次ご説明をさせていただきますので、大変恐縮ですが、随时お手元にご用意していただきますようお願いいたします。

また、閲覧用として、文化・読書・スポーツの計画書の冊子もお手元にご用意させていただいておりますので、必要に応じてご参照いただけますと幸いです。

それでは、ここからは原田部会長に進行をお願いしたいと思います。原田部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

■原田部会長

よろしくお願いいたします。それでは、進行を代わらせていただきます。

改めまして、読書部会の部会長を務めさせていただいております原田でございます。よろしくお願いいたします。

最近、足立区の各図書館についての入札もしくは評価等に関わらせていただきましたけれども、そのときに、利用者でいらっしゃる様々な方々のお話も伺うことがございました。実際に読書というものに関して従来よりも広く捉えていらっしゃる方が多いということと同時に、実際の効果もしくは影響について、区のほうでできるだけ何とかしてほしいというような希望を持っていらっしゃる方が多いということを拝聴する機会が多くございました。

今回、様々な形で資料を見ていただいて評価していただくわけでございますけれども、これらの結果が区民の皆様方にダイレクトに反映するものも多くあるかと存じます。

まず最初に、大変な作業をお願いして恐縮でございますというお礼を申し上げなければいけない

のですけれども、それとともに、まだもう少し見ていただくものがございまして、そちらのほうもご協力のほどを何とぞよろしくお願いいたします。

本日の部会につきましては、今日まとめさせていただいた後、9月下旬に第3回の全体会がございまして、そちらの中で最終的な意見調整をさせていただく、そのための下準備と申しますか、部会からの提案書の調整という場となります。

また、その評価とともに、新計画に向けたアンケート調査についても検討させていただきたいと考えております。新計画の策定を念頭に置いて、これまでの議論を踏まえて、具体的、実効的な結論としてまとめたいと考えておりますので、何とぞご協力いただき、活発なご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

1 第1回読書部会における主な意見及び今後の方針について

■原田部会長

それでは、早速、次第に沿いまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

まず、1「第1回読書部会における主な意見及び今後の方針について」を説明していただきたいと思います。事務局、よろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、事務局の大久保からご説明させていただきます。

お手元の資料1、A4縦のホチキス留めの資料をご用意いただけますでしょうか。前回、6月23日に行いました第1回読書部会で頂きました皆様からの主なご意見とそれに対する現時点での区の方針ということでまとめさせていただいております。

大きくは、評価に関するものとアンケートに関するものの2つに分けることができます。今この場でのご説明では、評価の部分、1～7をご紹介しますいただきたいと思います。8～24はアンケートのご意見となっておりますが、後ほど、アンケートに関する意見交換の中でご説明をさせていただきたいと思います。

まず、1～7の中で主なところをご説明させていただきます。1～3につきましては、前回の会議の中で事務局から既にご説明した内容となっております。評価に関する内容ですとか「出張おはなし会」の内容ということになっております。

4につきましては、前回、会議の中でご質問いただいております、その場でお答えができずに、後日回答とさせていただいたものとなっております。具体的には、施策2・2に関する資料に関して細かい内訳を知りたいということでご質問いただいております。大変申し訳ありません、こちらは業務システムで分類している内容になっていまして、ちょっと分かりづらい内容になっているのですけれども、「大型図書」ですとか「大活字」、「外国語図書」、「点字図書」ということで大まかに分けさせていただいております。もし何か追加でご質問がありましたら、後ほど頂ければと思います。

その次、5～7につきましては、部会の中で既にご回答済みの内容となっております。貸出冊数については、今、電子書籍は貸出冊数に含まずに、紙の本で進めさせていただいております。ただ、今回頂いた評価コメントの中にはこちらに関するご意見もありましたので、後ほど意見交換をさせていただければと思います。

6～7につきましては、現在図書館を使っている人の割合と東京電機大学に関するご質問となっております。

私からのご説明は以上となります。

■原田部会長

ありがとうございました。

質問もしくはコメント等はございますでしょうか。——よろしいでしょうか。

また何かございましたら、これに関わって触れていただいても結構でございますので、よろしくお願いたします。

2 読書分野の評価について

■原田部会長

それでは次に、2「読書分野の評価について」ということで、まずは説明を事務局からお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

それでは、引き続き大久保からご説明をさせていただきます。

お手元にご用意いただきたいのは、A4 縦のホチキス留めの資料 2 と A3 縦の資料 3「施策評価シート」をご覧くださいければと思います。

ここからおおむね 1 時間ちょっと、この評価シートに関して意見交換をしていただく形になります。この評価シートを事務局のほうでまとめさせていただきましたので、そのまとめさせていただいた経緯というか、まとめ方だけ、まず私のほうからご説明をさせていただきまして、具体的な評価シートに関する意見交換は、後ほど、原田部会長のご進行で進めていただければと思います。

まず、資料 2 のほうをご覧ください。皆様から頂いたご意見と評価の点数を施策ごとにまとめたものになります。

資料 2 の 1 ページ目は、施策 1-1 に関する現在の達成状況に関する内容となっております。

めくっていただきまして、各施策ごとに、達成状況だけではなく、方向性についてのご意見を頂いておりますが、1-1 の方向性に関するものは 2 ページ目と 3 ページ目に書かせていただいております。

このような形で、資料 2 については、施策ごとに達成度と方向性を、皆様の意見をまとめて記載させていただいております。

ただ、申し訳ございません、おわびがございまして、長沖委員のご意見につきましては、事務局のほうでまとめる作業が遅くなってしまいまして、別の資料としてお配りをさせていただいております。長沖委員から頂いたご意見につきましては、「評価コメント記入シート」という A4 横のものになっておりますので、この後の意見交換につきましては、資料 2 と資料 3 に加えて、個別の長沖委員の資料も参照していただきながら議論を進めていただければと思います。

こういった形で皆様から頂いた資料 2 の内容を事務局のほうで少し整理をさせていただいた上で、資料 3 の 5「推進委員会による評価」にまとめさせていただいております。「現在の達成状況」と「今後の方向性」のところに箇条書きのような形で書かせていただいておりますが、まとめるに当たりましては、なるべく皆様のご意見を幅広く拾うようにさせていただいております。ただ、同様のご意見を頂いている箇所も幾つかございましたので、同様の意見につきましては 1 つにまとめさせていただくような形で整理をしております。

本日、この後の意見交換の中では、こちらの記載に過不足がないかというところとあと評価の点数、評点のつけ方につきましては、皆様に出していただいた点数から、一旦、平均点を出しております。例えば、資料 2 の 1 ページ目で言いますと、施策 1-1 の「現在の達成状況」ですが、こちら

には長沖委員は含まれていないのですけれども、5人の委員の皆様の評点の平均点を出すと4.2になったという見方になります。

めくっていただきまして、2ページに3.8という数字が右側のほうに入っていますが、これは方向性に関する評価の点数の平均点となっております。

4.2点と3.8点を合計して8点になるのですけれども、以前にお配りした資料で、この合計点が8点になると全体評価は4点になるという仕組みがございまして、それで全体評価を4とつけさせていただいている形になります。

それで、資料3のほうをご覧くださいなのですが、結果としては、達成度4、方向性4、全体評価4という点数となっております。

資料2のほうは小数点を入れておりますけれども、資料3に記載する場合には四捨五入するような形で記載をさせていただいております。

ただ、こちらは機械的に全体評価を出させていただいておりますけれども、例えば、「達成度が4で方向性も4だけれども、全体のコメントの内容を見ると、全体の評価としては3がふさわしい」、そういった意見交換もしていただいて全く差し支えございませんので、そのあたりは皆様のほうでご議論いただければと思います。

そういった形で施策のほうは9枚ございますので、なかなかタイトな時間管理にはなってしまいますけれども、この後、ぜひ意見交換をお願いしたいと思います。

事務局からは以上となります。

■原田部会長

ありがとうございました。

評価の進め方について、今、ご提案がありましたけれども、特にご意見がなければ、この形で進めさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。――

それでは、特段のご意見はないようでございますので、資料2及び資料3、さらに、長沖委員に書いていただいた「評価コメント記入シート」という3つを前に置いていただきまして、各委員の間の意見交換を進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますけれども、施策1-1から始めたいと思います。

資料3の「推進委員会による評価」のところに書いていただいたものが各委員からのお話がまとまったものということになっております。皆さんの意見を拝見しても、大体、一致しているところが多いかなとは思っているのですけれども、ご自身の意見等で、「この部分については反映されていないです」とか「こういうことについて、より強く主張しておくべきである」というようなお話がございましたら、ぜひ声を上げていただければと思っております。

まず、1-1でございますけれども、指標①及び②がともに減少しているというお話でございます。

「親子で一緒に本を読んでいる割合」は3歳児につきましても4・5歳児についても減っているというお話であり、全体として見ると、その前の年よりもさらに減っているというようなお話がございします。そのあたりが残念であるというような評価がまず最初に得られ、さらに、その後、様々な形で事業についての対策がなされているということ、特に、新規でプレママ・プレパパ向けの読み語りを実施したこと等については評価できるというような形で書いていただいております。

一方で、アウトリーチ事業は目標を達成してきたのですけれども、保護者の読書への関心、読み語りにはつながっていないという面があり、また、幼稚園、保育園、こども園文庫の貸出しについても、まだまだ不十分であるというような形でまとめていただいております。

「現在の達成状況」について、今ここに上がっているア、イ、ウ、エ、オ、5つ上げていただいておりますけれども、コメント等を頂ければ。同じことの繰り返しで結構でございますし、また別の意見を出していただいても結構でございますので、ぜひコメントもしくはご意見を頂ければと思います。

まずは「現在の達成状況」についてまとめ、それから今後の方向性という形にしていきたいと思いますので、まずは「現在の達成状況」について、このような形でまとめてよいかということについて、ご意見等がございましたらお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

申し訳ありません、資料3のところには長沖委員のご意見が入れていない状況がございますので、長沖委員のシートのほうをご覧くださいまして、例えば、資料3に書かれていない内容で、この内容は資料3のほうに入れるべきではないかというご意見がありましたら、今後記載させていただくような形で進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

■原田部会長

ありがとうございます。

今、長沖委員の意見を見ていて、大体似たようなものが入っていると思って見ていたのですが、少なくとも1-1に関しては入っているかなと思って見ていたのですが、よろしゅうございますでしょうか。特にこれに追加して何かというのは、ひょっとすると、場所の問題その他から、ちょっと縮めたところもありますので、場合によっては、追加させていただき、増やさせていただくことがあるかもしれませんが、おおむねこのような形で進めさせていただいて、微調整させていただくというような形でご了解いただければと思います。

まず、「現在の達成状況」につきましては今上げたような形で了解させていただくということで、今度は「今後の方向性」でございます。資料2は裏面及び3ページ目にまたがるお話でありますけれども、ここに上げられておりますのは、現在の施策を継続しつつ、スモールアクションでもいいので、よりよくすることも期待したいというお話であるとか、もしくは、出産前からの読み語りはとても重要ですので、このあたりも展開を期待したいというお話、さらに、「あだちはじめてえほん」については魅力的であるという意見とそれから、外に出てこない親や子どもについて、自動的に受け取れる仕組みが必要ではないかというお話、さらに、幼稚園や民間企業とのコラボレーションを進めてほしいというお話がございます。

また、長沖委員のほうからは、ざっくり親子一緒ではなくて、特に親に向けたという部分について強調してはどうかという意見も上がっており、これについても追加させていただくことはできるのかなと思っておりますけれども、今言ったア、イ、ウ、エ、オ、さらに、親に向けての施策を強調して書くということがあったとすれば、カまで含めた形で書かせていただくということでいかがかと思いますが、いかがでしょうか。

皆様からの意見、大体まとめさせていただいておりますが、ざっくりまとめてしまうと、どうしても細かいところは反映されませんけれども、この部分について強調したい等がございましたら、ぜひお願いしたいと思います。

得点につきましては、すみません、先ほど最初にやっておいたほうがよかったのですが、「現在の達成状況」については4がほとんど、田口委員が5、そして、長沖委員も4ということでございますので、下振れしても4ということですので、4でよろしゅうございますでしょうか。

一方、「今後の方向性」に関しましては、3が3名、4が2名、5が1名という形になっていま

す。平均すると、3.5は上回るけれども、4には届かないという計算になるのですけれども、4にするか3にするかというあたり、ちょっと悩ましいところがあるかなとは思っております。

私が読んでの印象といたしましては、現在の施策そのものが展開されているという達成状況を受けて、少なくとも新たな行動がいろいろ取られているというところで、高めに評価してもよいのかなとは思っております。5の方、4の方が半分を占めるということも含めて、4でもいいのかなとは思っておりますけれども、3に落とすということも考えられ、何かご意見等がございましたらと思いますが、4でまとめさせていただいてもよろしゅうございますでしょうか。

それでは、全体評価は、「現在の達成状況」、それから「今後の方向性」、ともに4という形で評価委員会からも評価したいと考えております。

今度は、その次のページ、施策1・2になります。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

補足だけさせていただければと思います。

今回、先ほども点数のところをお話しになりましたが、資料3の点数が長沖委員の点数を含めない形の計算になっておりますが、先に申し上げさせていただきますと、1つの施策を除いては、長沖委員の点数を含めても一応この資料3の点数は変わらないことを、今、事務局のほうで手元で確認しております。後ほど出てくる施策2・1のところでは、長沖委員の点数を含めると少し評定が下がるところがございますので、そこはまた改めて補足させていただきます。

あと一点だけ、今回、資料2の高祖委員からのご意見のところ、ご質問いただいている箇所がありましたので、事務局から補足をさせていただきたいと思います。

資料2の1ページの事業のところ、『幼稚園、保育園、こども園文庫の貸出の推進』において、目標値が下げられているのはなぜか？というご質問を頂いております。本日、申し訳ありません、お手元に資料をご用意できていないのですが、たしか、こちらの事業の目標値は、令和8年度が40%ぐらいの目標値になっていて、現状は60%になっているのですけれども、恐らく、そこのご指摘かなと認識しております。令和8年度の40%というのは大分前に立てた目標をそのまま残してきてしまっていたところがありまして、一方で、実績はどんどん上がってきてしまって、それを超えてしまっていたという状況になっております。ですので、今、低いままになっている令和8年度の目標については、計画の見直しの際に改めて高い目標を設定させていただければと思いますので、事務局としてはそのように考えてございます。

■原田部会長

ありがとうございます。

前回の第1回のときに出していただいた意見だと思います。そのときにもお話がございましたが、昔の目標をそのまま立てているので既に超えたというような説明でございますけれども、見直しを行っていないのでそういう形になっているので、今回、見直しを行う際に新しい目標値を設定していただくというような形になろうかと思います。

さて、1・2に移らせていただきたいと思います。1・2「子どもの読書習慣が身に付く活動の推進」ということで、様々なご意見を頂いております。

「現在の達成状況」につきましては、先ほどと似たようなお話ではございますけれども、指標①「1か月間に本を読まなかった児童の割合（小学5年生）」と指標②「1か月間に本を読まなかった生徒の割合（中学2年生）」の2つは、昨年と比べて特に指標①が減少しているということが残念であり、また、指標③と指標④については伸び率が減少しているというようなお話、さらには、指

標⑤「児童書の貸出冊数」については大きく減ったということについて残念であるという指摘がございます。また、「出張おはなし会」につきましては実施が減っているということが残念と書かれておりますし、また、実施回数を増やすためにはどうしたらいいかということについてのご意見も書かれているという状況になっております。また、児童館との連携についての課題も指摘していただいております。

一方で、「あだち読書通帳」の配布冊数は大幅に伸びておりまして、この努力は評価できるというような形で書いていただいております。

ここにありますように、様々な形で意見が出ておりますけれども、全体として、実施する回数並びにその結果としての貸出冊数ですとか、または本を読む児童の割合ですとか、そういうものについて伸び率が減少しているというような状況があるということが懸念されるという声が大きく上がっているという状況になっていたかと思います。懸念を示すようなお話が比較的たくさん出ておりますけれども、このあたりについて、さらに追加して書いておこうというようなお話はございませんでしょうか。

■長沖委員

僕だけ違う紙になっていて、ひいきされているみたいで、ごめんなさい。

子どもの読書指標は、どこの町を見ても、そんなに低くないのです。言われてみれば、大体、子どもというのは本を読んでいて、ほとんどの理由は、学校の朝読とかを含めた、だから、読んでいない人は朝読をさぼっている人というだけの話で、ここについては、成果指標と施策の間に実際に直接的な連関があるか怪しいというふうに、すみません、毎年している人からしたら怒られるかもしれないかもしれませんが、見方としたら、多分、そう見るのが適当ではないかと思うので、今後、施策を考える上で、学校の図書館がどのぐらいの効果を出しているかということは、どこかでコメントを入れておいたほうがいいと思います。

■原田部会長

ありがとうございます。

実際に、読書離れはないというお話を説明するときによく使われるお話ですし、全国学校図書館協議会等の調査を見ても、ずっと増え続けているというのは間違いのないお話で、それをもって考えると、本を読まない人の割合は減っているというようなお話があります。

ただ、一方で、ここに上がっておりますのは、そのバイアスをかけたとしても、なおかつ下がっているというお話をどう捉えるかということかなと思っておりまして、その意味で、数字は低いにこしたことはないのですが、そのこと自体は問題ないまでもという長沖委員がお書きになったお話と対応するのかなと思いますけれども。

指標が妥当かどうかというのは確かに微妙なお話ではございまして、そこまで織り込んでいきますと、この達成状況についての評価がなかなか難しくなってしまうのですけれども、取りあえず、目標値の設定というお話と併せて、再検討するときには、そのお話も考えさせていただくということにして、とりあえず、この評価で考えていったとき、もちろん、今言ったお話から考えて、①と②の指標については指摘するものの、それほど大きく捉える必要はないかもしれないというようなことは注釈として入れておいたほうがいいかもしれませんけれども、まとめ方としては、少なくとも、減ったのは残念であるというような形にさせていただくのはどうかと思いますけれども、いかがでしょう。やはり、もっと積極的に書いておいたほうがいいというようなお話も当然あるでしょうし、また別の意見もあるかと思いますが、いかがでしょう。各委員、いかがですか。——「こん

な感じでまとめておいて、後から考えましょう」でいいですか。

それでは、この達成状況についてはこういう形でまとめさせていただいて、書いてありますとおり、アからエまでであるうちの3つ、ア、イ、ウについては、まだ十分には実施できていないというか達成できていないというような指摘を書いている文章でございますので、このような形でまとめさせていただければと考えております。よろしゅうございますでしょうか。

この評価でございますけれども、達成度は、資料2では3.4で全体評価は4と書いてありますけれども、評価シートのほうに書いてあります3が正しいまとめ方になっておりまして、3となっているのかなと思いますけれども、3でいいのですね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

1-2ですけれども、3.4のところに長沖委員の点数も加えると、ここが3.5になって、そうすると、単純に四捨五入すると資料3の達成度は4になる形となります。

■原田部会長

なるほど、分かりました。

今、長沖委員がおっしゃったお話は指標についてのお話で、特に評価のお話ではないので、これについては、ほかの委員の方々が評価されたお話と併せて3という形で丸めさせていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、このシートにありますように、達成度は3という形にさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

また、「今後の方向性」につきましては、特に積極的な働きかけをする必要があるということで、モチベーションを向上させるための仕組みが必要だというようなお話は書いていただいております。より積極的な働きかけを検討する必要があるというお話で、本に触れるだけでは読書習慣の定着を図るということは難しい、ビブリオバトルですとか本を紹介するポップ作りへの参加、そういう参加型の事業についてのお話ですとか、「家読（うちどく）」の普及・啓発についてもより検討してはどうかというお話がまず1つ目、2つ目に児童館でのイベントについてのお話、そして3つ目に、「一方で」と書いてありますけれども、読書の楽しさに関わるお話がありますので、調べ学習その他を含めた機能的読書の周知・習得についての施策も検討してほしいというお話、さらに、インセンティブのつけ方についてももう少しやってはどうかというようなお話が書かれているかと思います。

長沖委員からは、先ほどの達成状況と併せまして指標の見直しについての提案も上がっております。ぜひ、指標の見直しについては、先ほどのものと併せて提案しておくのが妥当だと思いますので、事務局と相談してオの形で追加させていただければと思っておりますけれども、そういう形で追加させていただくということでよろしゅうございますでしょうか。

そのほかの意見、短期的、長期的、いろいろと書いていただいて、勉強になるというか、非常に今後の活動につながるものをたくさん書いていただいているのですけれども、これを全て書いていくとスペースがございませんので、まとめさせていただく形でこのようにさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。――

高祖委員、何か追加しておくべきことはございますか。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、このような形で書かせていただきたいと思います。

評価でございますが、5、5、4、3、3ということで、3にするか4にするかは悩ましいところではございますけれども、こちらにつきましても、5の評価の方は川村委員と田口委員のお二人いら

っしゃるということも併せ、また、長沖委員のお話が指標の見直しというお話であるということも併せまして、取りあえず4と設定させていただいてよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

それでは、施策1・2につきましては、今言った形で、事務局で作っていただきました評価に加えて、指標についての提案を追加させていただくという形で文章を作り、得点のほうは3と4という形でまとめさせていただければと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

評価がまとまった後で恐縮でございます。

今回の方向性の評価のところで少し補足をさせていただきたいのですけれども、この8月から始めました読書通帳50冊達成時のプレゼントのことで川村委員と中野委員からご意見を頂いておりまして、実は、川村委員からは高く評価できるというコメントを頂きまして、中野委員からは、50冊だとハードルが高いので、例えば、10冊、20冊というプレゼントもいいのではないかとのご意見を頂いております。

このところについては、ご意見が分かれたところもありますので、申し訳ありません、事務局のほうで記載を控えさせていただいたところにはなります。

中野委員に補足でございますけれども、実は、当初、事務局でも、本当は、10冊、20冊というやり方もあるかなということ考えたのですが、今回初めてやるに当たって、まずは、今読んでいる子がもっと読むというほうに一旦目標を置いて、まだ本にそんなに慣れていない、まずはちょっと読むところから始めてもらいたい子には、もうちょっと楽しいイベントみたいな形の事業で啓発をしていくような流れも考えておりますので、そこだけ補足をさせていただければと思います。ご意見ありがとうございます。

■原田部会長

ありがとうございます。

このあたり、意見が分かれたということもございますけれども、実際問題として、インセンティブという形でまとめさせていただくという形で、「より」というような表現を入れてもいいのかもしれないけれども、ありがとうございます。

それでは、1・3に移らせていただきます。物すごいテンポで進んでおりますけれども、何とか1時間で終わらせたいということもあって、バタバタとしております。とはいいいましても、意見がございましたら、ぜひ止めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

1・3「子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信」についての評価でございますけれども、特に保護者に関しては全体的にまだまだという評価が出ているということかと思っております。「各保健センターでの絵本の読み語り」や「プレママ・プレパパのための啓発事業」の未実施は残念だし、また、身近な大人の読書についての認知は依然として低いままだというお話、さらに、保護者が読書をするということが子どもの読書習慣をつくるということが認知されていないということが残念だということがアに書かれ、イについては、それを目指す活動の参加者数ですとか体験学習の受入数についても横ばい状態で目標値を下回っているということで、比較的低い評価が並ぶようなコメントが集まっているということかと思っております。

長沖委員からは、社会全体の中でのお話なので、区の施策でどうなるものでもないというような形で、そういう中では健闘しているという評価が上がっておりますけれども、全体として、目標値は高いものの、区として、こういうものについてやっていこうと決めたということもござい

で、また、この目標を設定するときに、これが非常に大きな効果を上げるだろうという意見が上がっていたということも併せまして、残念だという評価はそのまま書かせていただき、その上で今後について考えていくという形はどうかと思いますけれども、この形で書かせていただくということでいかがでございましょうか。よろしゅうございますでしょうか。

これと併せまして全体評価につきましては、3 よりも下げるということもあるのかもしれませんが、3、4、5 でつけていることが多いということもありまして、評価値は3 がほとんどで、4 がお二人という形になっております。トータルとして3 という形にさせていただこうと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

次に、「今後の方向性」につきましては、より様々なことをやろうという提案をたくさん出していただいております。子ども一日図書館員ですとか、産前講座などにおける活動ですとか、啓発事業ですとか、そういうものについて、今後の方向性そのものについてはともかくとして、その活動内容についてはまだまだ不十分という形のコメントを多く出していただいたのかなと思っております。

「あつまれおもしろい本」とか、こういう面白い企画もやってはどうかというようなことも長沖委員には書いていただいておりますし、それとともに、最初にお話をしておりましたような、保護者が読書をするということが子どもの読書習慣をつくるのだ、もしくは読書の効用が子どもたちに良い影響を与えるのだということについての理解が十分に進んでいないということがあり、これらについては、積極的にそれを教えるというか、それを伝えるという活動も必要だというような意見が上げられております。

アからエに上がっている項目にプラスして、それはぜひ書いておいたほうがよい項目かなとも思いますけれども、アからエに上がったものに加えて、身近な大人の読書というものが子どもたちに対しての読書に大きな影響を与えるということについての啓発活動ですとか広報活動ですとか、そういうものについても検討してほしいというような形で追加させていただくというような形で入れるのがよいかなと思いますけれども、長沖委員、いかがですか。

■長沖委員

成果指標の割合を高めるということが出てくるのですけれども、割合というのは、つまり、やっていない人をやる側に回すという話なのです。やっていない人をどう見るかなのですけれども、シームレスに、読まない人、読む人、読まない人、読む人となっているのか、分断が起こっているのかということの解釈において、僕は足立区民ではないので、その辺の構図は分からないのですけれども、そうすると、例えば、分断されている場合には、啓発と言っても、言うことを聞く人はほぼいないのです。そもそも面白いという感覚が向こうとこちらで違っていたら、向こうが面白いと言うものを見せなければいけないし、例えば効用ということで言ったら、アメリカでみんな本を読むのは、カーネギーとか、本を読んで大金持ちになった人がむちゃくちゃいるからなのです。けれども、日本では、本を読んで大金持ちになっている人より、本を読んで失敗している人のほうが多かったりするので、その辺が目に見えて成功すれば、みんな本を読み始めるし、だから、「啓発」という言葉で「効用がありますよ」と言っても、見えるところでそれが示されないとちょっと危険なので、ぜひぜひ、石破首相は本を読む人なので、もっと活躍してほしいというのがありました。

施策で僕が言いたいのはその部分で、割合を上げるといったら、じゃあ、具体的にどう上げるか。多分、「啓発」という言葉を使っているのは思考が停止するのではと思われるところです。

■原田部会長

なるほど、分かります。「啓発」よりも「効用」という言葉を入れるほうがより望ましいのですね。

■長沖委員

そうです。効用が目に見えたほうがいいということです。

■原田部会長

分かりました。読書の効用というお話ですね。

身近な大人の読書活動が目に見えるような効果を上げるという事例も含めた広報活動が今後望まれるというような形の文章がいいのかなと思います。

今おっしゃったお話はそのとおりだと思いますので、その形で書くのは全然いいかと思いますし、ぜひ、そのような形でまとめさせていただければと思います。ありがとうございます。

■高祖委員

イベント自体の工夫というか、これに限らずですけども、読み聞かせもそうですが、いつも割と何となく踏襲型でやりがちなのですが、やはり、ちょっと工夫というか、その時期に合わせたり、何か話題になっているものをつなげるとか、興味を持てるような PR を今もしてくださっていると思うのですが、ちょっと意識してやっていただくといいかなと思っています。

■原田部会長

ありがとうございます。そのとおりですね。

一応ここに実際の体験型ですとかの強化を書いてはいるのですが、もう少し伝わったほうがよろしいですかね。ウのところにあります「時間を 2 部制にするなど、日時を調整してほしい」とか「実際に体験したものを展開してほしい」とか、いろいろ書いてはいるのですが、もっとダイレクトな書きぶりにしないと伝わらないですかね。そうかもしれませんね。分かりました。おっしゃっていることはそのとおりだと思います。

事務局と調整させていただいて、より積極的に、中身を継続するだけではなくて、工夫するようというニュアンスを入れられれば入りたいと思います。どこまで入れられるか分かりませんが、その辺を追加するという形で書かせていただければと思います。ありがとうございます。

得点でございますけれども、こちらのほうも皆さんの評価自身は、4 が 4 名、3 が 2 名ということで、これを併せますと 4 なのですが、方向といたしまして、書いてある中身は、どちらかというと頑張れというお話が中心になっておりまして、事務局、多分、これを足すと 4 になると思うのですが、全体評価は 3 でもいいと思うのですが、3 でよろしいでしょうか。4 にしてしまったほうがよろしいでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

こちらを合計すると……。

■原田部会長

4 が 4 名で 3 が 2 名だから 3.5 は超えると思うのです。今は 3.6 ですね。3.7～3.8 は行くのではないかな。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

今日、お手元に資料がなくて恐縮なのですが、全体評価は足した点が 7 点以上ですと 4 がつく仕組みになっていまして、この 3.6 と 3.2 を足して 6.8 点ということで、7 点に届かないということで全体評価を 3 にさせていただいている形になります。

■原田部会長

どちらにしても3でいいのではないかと思っていましたけれども。書いている中身も3なので、3でいいかなと思っているのですが、3でよろしいですか。

■中野委員

方向性が3ですか。

■原田部会長

方向性が3ではないかと思っているのです。

■中野委員

なるほど。

■原田部会長

全体評価は3でいいと思っているのですけれども、方向性は、今、資料2の10ページを見ると、方向性のところの評価が、これは全体評価が上に上がっているだけか、方向性は3.6ですね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

失礼しました。3.6を四捨五入すると、確かに、ほかのところと併せると方向性は4にはなります。

■原田部会長

4にはなるのだけれども、書いてある内容はみんな頑張れしか書いていないので、3でもいいかなと思ったのですが、どうでしょうという提案でございます。

4にしますか。3でもよろしいですか。頑張ってほしいので3にさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。

そういうことで、皆さんの評価は3と4で4のほうがちょっと多いという形でございますけれども、書いてあるコメントの中身を拝見して、達成度3、方向性3ということで、全体評価は足してお話なので3という形にさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。すみません、全体評価は、達成度と方向性を決めればあとは勝手に計算していただけるものだと思いますので、そのとおりやっただけでございますが、取りあえず3にさせていただければと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

補足をよろしいでしょうか。申し遅れまして申し訳ありません。

実は、今回、長沖委員から頂いている「質問回答票」というものもございまして、その中に施策1-3に関する内容がございますので、事務局のほうでご回答をさせていただきたいと思っております。

文字が小さくて申し訳ありません、A4横の「質問回答票」となっているもので、項番1で「あつまれおもしろい本」に関するご質問を頂いております。ターゲット設定について、ふだん読書をしない子がターゲットか、好ましい読者を増やすことが目的かというご質問ですが、実態といたしましては、あまりどちらかに寄っているわけではなくて、双方を対象にしているというような内容になっております。幅広くということになっているのですが、ただ、ここは事務局としても課題かと思っております。この目的については、今後、整理をさせていただきたいと思っております。これから検討というところでございます。

■原田部会長

長沖委員、よろしいでしょうか。

■長沖委員

はい。

■原田部会長

ありがとうございます。

それでは、1-4に移らせていただきたいと思います。1-4「本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用」につきましては、学校図書館員の配置日数の拡充、派遣事業の定着といったものがより進められているということで、子どもたちの読書環境づくりは向上していると評価しているという意見がまずあり、さらに、それに伴うものかどうかは分かりませんが、指標①及び指標②については伸びている。すなわち、小学生、中学生、ともに図書館の利用は伸びているという点も評価したいというお話、さらには、スーパーバイザーですとか学校巡回司書が行っているものがありますけれども、これらのノウハウが情報活用に反映されているというような評価として書いているということになるかと思います。さらに、新規の調べ学習用図書資料の配送サービスについては、調べ学習の支援に大きく寄与していると考えられるという形で、これについても書かせていただいております。

スーパーバイザーについてのお話は古瀬委員に特に書いていただいている意見でございますけれども、上の指標①②の話を受けてということかと判断して、環境が整備されているというか、ノウハウがある程度共有されているということを前提に書いていただいていると判断したのですが、後ろほうの方向性というお話の前に、達成しているというところに書かせていただいてもよろしゅうございますでしょうか。

■古瀬委員

はい。

■原田部会長

ありがとうございます。

以上、書いていただいている中身、順番に書かせていただいておりますけれども、派遣事業の定着を評価するという形で皆さん書いていただいております、まだまだ不十分なところはあるかもしれませんが、まずは動いているところを評価したいというようなお話になっているかなと思います。

長沖委員からも、「学校の持つ強制力」ということで表現はなかなか強い表現ですけれども、成果が出ているということの評価をしているということになっておりますので、「学校の持つ強制力」は書きにくいものですから、このままとさせていただいて、ア、イ、ウ、エにまとめさせていただくということでもよろしゅうございますでしょうか。

そういうことで、これら4つ全てプラスの評価を出していただく形になっており、評価も4の方と5の方がほとんどで、5の評価でもいいのですが、まだ完全ではございませんので一応4ということでまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

そういうことで、達成度は4とさせていただければと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

今、部会長におっしゃっていただいた古瀬委員のご意見、11ページの2番のところなのですが、教育委員会のほうに確認をさせていただきました。実際、今、ノウハウの展開というところで言いますと、学校には、ノウハウの展開ということで、実際にスーパーバイザーが直接助言したり、今、スーパーバイザーのほうで図書サポという通信みたいなものを作って、それを年6回、学校に発行しているということで確認しております。

保護者へのということでございますと、こちらはこれからなるそうですけれども、今後、ホーム

ページ等でそういった専用のページを作ることも検討しているということで、これはまだ検討段階ですけれども、そういった点は確認させていただいております。

以上でございます。

■原田部会長

古瀬委員、コメントはございますでしょうか。

■古瀬委員

せっかく、いろいろなノウハウを持ってらっしゃる方たちがいらっしゃるので、ぜひ保護者に分かりやすく案内をしていただきたいと思いますと思っています。

■原田部会長

ありがとうございます。

動き始めたものですから、動き続けていかないとあまり意味がないということがありますので、ぜひお願いしたいと思います。

それから、「今後の方向性」でございますけれども、学校図書館の活用推進策については、学校図書館支援のアクションプランに基づいた具体的な案が出ているということの評価のお話、それから、子どもたちの意見を聞いてはどうかというお話、特に学校ごとに特色のある図書館づくりを考えていくということについても検討してはどうかというお話も出していただいております。さらに、図書資料の整備と充実に関しましては、そもそも学校図書館の図書標準が古い基準ということもありますし、最低ラインを決めているだけのことでございます。実際に、あの数では全く動かないのは皆さんご存知のとおりでもございますので、このようなお話についてはいろいろと考えてもよいだろうというお話も田口委員のほうから出していただいております。さらに、たくさん本があればよいというだけではなくて、蔵書データについても、廃棄基準等の突合を含めて、質の向上を目指すというような基準を設定するというご意見も出していただいております。

質の向上を目指す基準に設定してはいかがだろうかということは、ぜひ入れておいていただきたいと思うところではあります。

AI の普及等について、学校図書館の資料をどのように学習活動に生かせるかというお話についても書いていただいておりますけれども、いろいろなことを考えていただくということが必要かと考えられます。

長沖委員からは、もっと面白い情報機器のない学校こそ威力を発揮するというお話ですとか、または、学校を読書センターと位置づけるというお話以外の位置づけについても書いていただいておりますけれども、「情報機器除外センター」とは書きづらいということもございますし、この中には「質の評価」ですとか「特色ある図書館づくり」というような形で書いておりますので、取りあえず、この形のア、イ、ウでまとめさせていただいてはいかがかと思っておりますけれども、いかがでございましょう。よろしいでしょうか。

■長沖委員

田口さんは何で、こんな辛口なことを書いているのに、評価は5なのでしょうね。

■原田部会長

そうですね。でも、動いていることを評価されたのではないかと思いますけれども。

そういうことになります。田口委員の評価は5、それから長沖委員の評価は3ということはありますけれども、残りの方々は評価4でまとめていただいておりますし、様々なことをプラスアルファで書きたいところはありますけれども、方向性については、頑張っているのを進めてほしいとい

うことで、方向性についても4という形にさせていただきたいと思いますが、達成度4、方向性4、そして、ここにあります『今後の方向性』への評価については3つのことを書かせていただくということでまとめさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

私がひたすらしゃべっているものですから、ちょっと疲れてきたかと思いますが、2～3分にして2-1に移りたいと思います。

(休憩)

■原田部会長

それでは、続けさせていただきたいと思います。施策2-1「区立図書館資料の充実と活用」というテーマになっております。

「現在の達成状況」でございますけれども、全体といたしまして、区民1人当たりの貸出冊数は減っているということは挙げることができるのかと思います。世代や地域ごとに推移の変化が分析できるとなおよいというようなことについても記述させていただいております。また一方で、展示コーナーの貸出率が上がっているということは評価できるというお話、さらには、図書館に来館しなくても読むことができる電子書籍の拡大は一定の評価ができ、特に高祖委員からは、貸出冊数は減っているのだけれども、電子書籍の貸出しも合わせての評価にすべきではないかというようなお話も書いていただいておりますし、川村委員からも電子図書館の貸出冊数も増加しているということですから、達成状況については悲観する必要はないのではないかというような形のコメントも頂いております。

このような形で、全体として貸出冊数が減っているということ自身は残念だという評価になっておりますけれども、今後は電子書籍も含めて考えていくというような話もあり得ますし、そういう意味も含め、貸出冊数が減っていること自身を物すごく大きなマイナス要因として捉えるという形ではないほうがよいのではないかということで書いていただいているのかと思います。

この結果でございますけれども、展示コーナーの貸出率が上がっているというお話は、特に様々な形で図書館が活動しているということの表れでもありますので、高く評価してよいのではないかと考え、ア、イ、ウを併せて高い評価で書いているというようなニュアンスでまとめさせていただいているということになりますけれども、このような形でまとめさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。取りあえず書きぶりはこういう形にさせていただいた上で、高祖委員の評価が2になっておりますのは、書いている中身を読みますと、減っているのが残念だから評価2ではなくて、評価指標のほうがということですよね。なので、取りあえず評価2としていただいているということかと思います。

なので、この評価全体が3.6というような評価になっていて、低い評価になっておりますけれども、長沖委員の評価は、広報活動にリソースを割けというような話がありますけれども、評価そのものはちょっと高めの評価で4とさせていただいてもよろしゅうございますでしょうか。

■長沖委員

はい。

■原田部会長

評価そのものは4とさせていただき、すみません、今言うべきだったのですが、長沖委員のお話

であります広報活動にリソースを割けというお話は、リソースを割けというのは、今止まるのもややこしくなりますので、広報活動についても力を入れろぐらいの表現にさせていただくことでよいかなと思いますけれども……。

■長沖委員

2と書いたのを反省しているので、3にしてください。

■原田部会長

ありがとうございます。

そういうことで、評価は3.6、長沖委員の評価を併せますと3.5を切るという形になりますけれども、高祖委員の評価も長沖委員の評価もそれほど低くないと考えさせていただいて、4という評価にさせていただきたいと思います。

その上で、達成状況についての評価はこのような形にさせていただき、長沖委員の意見は、広報活動は将来の方向性のほうかなとも思いますので、そちらのほうに入れさせていただくような形にしてはどうかなと思いますけれども、よろしゅうございますでしょうか。

■長沖委員

はい。

■原田部会長

ありがとうございます。

では、そういう形にさせていただいて、今度は「今後の方向性」のほうでございます。「今後の方向性」については、何より電子書籍の利活用について、時代の流れから考えても、もっとPRすべきではないかというお話があり、また、川村委員からも出ておりますように、講習会の実施等の利用促進策についても必要だというお話がございます。さらに、今せっかく頑張っている展示コーナーその他の強化もあり、庁内との連携強化による展示の強化は実施してほしいというお話、さらに、短期的な児童についてのお話だけではなくて、大人に対しての取組をもっと頑張してほしいというお話、さらに、様々な余暇活動の中で、どのようにして本に親しみを持ってもらおうかというテーマは非常に重要であるというお話、これと併せて、長沖委員から出ておりますような広報活動についての充実もしくは力を入れてほしいというようなお話を足す形で「今後の方向性」をまとめさせていただきたいと思いますが、ポイントとしては、今上げたア、イ、ウ、エの4項目プラス広報活動という形でまとめてよろしゅうございますでしょうか。

■古瀬委員

こちらの施策評価シートの一番下に、電子図書館については、メインターゲットの見直しも含めて検討しているという区の担当部の評価があるのですが、今、施策を見ても、足立区さんは子ども・子育て世代を主なターゲット層として計画しているという形での目標値を上回っているという現状なので、私は、この見直しをもうちょっと拡大して検討させていただいて、自分の意見として「使い勝手の良い電子書籍はシニア層を含めた大人世代にこそニーズがあるのではないか」と書いたのですが、そういったところも中長期的な取組としてはあってもいいのかなと考えています。

■原田部会長

ありがとうございます。

私も電子書籍に入れられたときに相談を受けたことがあるのですが、恐らく、予算規模から考えて、広くしてしまうと広く浅くになってしまうというお話がありますので、ターゲットとし

て特に子どもに絞るという形で最初は動き始めたということがあり、このような形になっているのかなと思います。ですが、もし電子書籍を充実させていくことができるのであるならば、そういうものについて大人にもより広げていくということは非常に重要だと思いますので、そのお話については、メインターゲットの見直しというお話ではなくて、電子図書館サービスについて、大人に対するサービスも含めて、ターゲットを広げていくような活動というような提案にしていくと今のお話が入ってくるのかなと思うのですけれども、ここに書くとするならば、電子書籍の活用に向けた区民に対しての PR をもっとすべきではないかというお話の後ろにでも、電子書籍の提供対象についての拡充もしくは拡大について検討していくことも有効であろうというような書きぶりをするところかなと思いますけれども、大久保館長、このような形で書くことは可能でしょうか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

大丈夫です。

■原田部会長

でしたら、そのような形で書いていただいて、ターゲット層の拡大についても目配りしていくというような書きぶりにさせていただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。それでは、お願いいたします。

そういう形で、推進委員会のほうからは、電子書籍についての流れをより先取りする形で、公共図書館で電子書籍を入れていくという話については、なかなか進まないし、前向きなところもそれほど多いわけではありませんけれども、割と先取りするような形でやっていただきたいというような書きぶりにさせていただければと思います。

評価そのものにつきましては、方向として向いている方向は同じでございますので、皆さんの評価自身は 3、4、5 と分かれておりますけれども、今の書きぶりはそんなに悪くない書きぶりだと思っております、「今後の方向性」は長沖委員のものも入れますと恐らく 3 ということになるのですけれども、3 にするか 4 にするかでございますけれども、PR 活動が不十分だということをもって 3 にするか、取りあえず方向性が向いていることをもって 4 にするかというあたりで、いかがでしょうか、4 でよろしいでしょうか。

それでは、ちょっと甘い評価かもしれませんが、全体評価は、長沖委員からも方向性は 2 からもっと上に上げてもいいような身振りもいただきましたので、4 という形にさせていただきたいと思います。

それでは、こちらにつきましては、庁内検討委員会と比べて、えらく甘い評価になっておりますけれども、4、4、合計 4 という形で、頑張ってくれという期待も込めた評価にさせていただければと思います。ありがとうございます。

それでは、2-2「障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備」になります。こちらにつきましては、障がい者向けの宅配サービスですとかユニバーサルデザインの管理については評価できるというお話であります。一方で、令和 5 年と比べて実績は減っているということについては残念だというお話、これは 2 つに分けたほうがいいのかもかもしれませんが、また、その一方で、大活字本ですとか外国語図書などについて知らない人もいると考えられることもあり、関係機関との連携も含めて、周知についてはまだまだ不十分であるというような書きぶりになっているかと思えます。

書いてある内容は厳しい部分もありますし、また、利用実績が減少しているということはあるかと思えます。ですが、宅配サービスですとかユニバーサルデザインですとかの活動そのものについ

ては進めているということで、高祖委員と川村委員に書いていただいておりますように、それらの活動そのものについては評価するというような書きぶりにまとめさせていただくことになろうかと思うのですが、そのような形でまとめてもよいでしょうか、それとも、やはり不十分だというようなイメージから、「進めていることは評価できるけれども」が後ろにつくような評価なのかというあたりでございますけれども、皆様、評価をどうされているか教えていただければと思いますが、いかがでございましょう。

実際に、田口委員が書いておられますように、様々な研究機関との連携も含めて行われているということでありまして、また、事業のPRその他も一応はなされているということもありますので、悩ましいところではありますけれども、活動そのものは評価するということもあるのかもしれませんが。

一方で、長沖委員も書いてくださっていますように、利用されてこそ意味があるということは、要するに周知されていないということですから、周知されていないというほうをより重視するという意味もあり得るのかなとは思います。

先にこれを決めたほうがいいのかもかもしれませんが、評価を3にするならイを上を上げたいのです。評価を3にするならイが上で、イ、アの順番かなと思っていて、評価を4にするならア、イの順番かなと思っているのですが、どちらにしましょうという相談なのですが、どうでしょう、やはり、長沖委員が書かれているように、利用されてこそ意味がありますし、もうちょっと周知を頑張ってくれというお話を表に出しますか。

■長沖委員

周知の活動は結構やっていますよね。ほかのサービスに比べて外に行っているから。

■原田部会長

やっています。頑張っているのですよ。

■長沖委員

頑張っている。

■原田部会長

まだ届いていないというだけなのです。なので、達成度をどうするかは悩ましいところなのですが、どうですか。

一応、皆様のご意見は3、3、3、3、3、5なので、トータルすると3.4だから3になるというお話なので、では、この部分に関しましては、もうちょっと頑張ってくれを上に出すというような話にさせていただいてよろしいでしょうか。ア、イの順番を入れ替えさせていただいて、イのほうを上に出して、評価は3とさせていただければと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

2-2についてはご質問も2点頂いていますので、評価が決まりかけたところで恐縮ですが、まず、中野委員からご質問いただいておりますのは資料2の15ページでございます。中野委員のご意見の1番のところで、「貸出ルール変更がどこまで起因しているかは再度ご説明いただきたい」ということでご意見を頂いております。

こちらについては、資料3のほうの成果指標の①が減ってしまった理由として、こちらのシートの3「担当部における評価」のところで、貸出ルール変更により減ったということでコメントさせていただきましたので、そちらのご質問かと認識しております。実は、こちらは、正直、はっきりとした分析というわけではないのですが、昨年度、未返却の図書の対策として、本が返って

こなかったときに、今までは、1 か月ぐらい様子を見て、それでも返ってこないと貸出停止ということにしていたのですが、足立区はずっと未返却本が多いということが課題になっていまして、返ってこなかったら翌日から貸出停止にするということをしましたので、変動要因というところ、正直、それぐらいしか思い浮かばなくて、それで貸出ルール変更ということで書かせていただいたのですが、要は、返さないと次が借りられなくなってしまうので、その分、貸出しが少し落ち込んだのではないかとということで書かせていただいたのですが、確たる分析ではないというところが正直なところですよ。

2 点目のご質問としまして、長沖委員から頂いた「質問回答票」の項番 2 のところですが、外国人向けの外国書籍の提供についてということで「今後の方向性」のところでご質問を頂いておりますが、「逐次、翻訳ツールの購入に移行する見込みはあるか」というご質問ですが、現段階では、そういった方針はまだないところです。ただ、ご意見を読ませていただいて、確かにも思うところもございますので、今後どこかのタイミングで、そういったところも検討していきたいとは考えてございます。

何か追加のご意見がありましたら頂ければと思います。

事務局は以上です。

■長沖委員

翻訳ツールというのは、多分、みんな Google レンズとかが普通にある。どんどん進んでいっていると思いますし、街で英会話をしなくても道案内をしている状態になっています。そういう点では、恐らく、ツールが発達してくると日本の本は読めてしまうのだけれども、そういう良い点もあるし、恐らく、それによって予算も効率的に使えるのですが、中野さんとか田口さんの普通に書いてある文章の中には、外国語の書籍があったり使っている人がいるからこその外国人とのコミュニケーションだとか、その辺への理解が深まるという一面もあるので、単純にお金だけのことを考えて翻訳ツールに行ってもいけないだろうという面があって、どちらに向いているのかなということを知りたくもあり、考える必要があるだろうということです。

■原田部会長

実際に翻訳書から翻訳ツールという話をする場合には、紙から電子へがまず動いて、さらにその先であり、なおかつ、ガジェット等はどんどん発達していったら、図書館利用しなければいけない環境はどんどん減っていくと思いますけれども、それにしたところで、その説明ですとか、そういうものに関して通常使ってらっしゃる方の割合がまだそれほど高くない状況だと講習会その他も必要になると思いますので、方向としては、近い将来、急激に動くということはあると思いますが、動いたときに方向が急激に変わるというか違う方向に動くこともあり得るので、そのあたりをどう考えるかは難しいところかもしれませんね。

最初に動くことによって最初に波に乗ることも考えられれば、一方で、乗った波が別の方向に行って溺れるということも考えられるので、そのあたりは悩ましくて、図書館のほうでもまだ踏み切れていないというようなところがあるのかなとは思いますが、これを今取り上げるとインパクトがあっているのですが、一方で、ちょっと時期尚早過ぎるお話が出てくるかもしれませんね。追記で書いておいていただいて、これそのものに入れるのは、まだもうちょっと待たせていただくのがよいのかなと私は思いますけれども、よろしいですか。

■長沖委員

はい。

■原田部会長

ひょっとすると来年にはもう入れるというような動きになるかもしれませんが、取りあえず、そのあたりについては、ちょっと様子を見させていただくというような形でお願いできればと思います。ありがとうございます。

それでは、2-2の「今後の方向性」に移らせていただきたいと思います。「今後の方向性」につきましては、当事者の意見を伺う機会を設けるということは非常に重要であるというお話がまず書いてあります。さらに、評価ですとか評価の分析についてもやるべきだというお話が書いてあります。また、大活字本などについては、手に取っていただく機会を増やすような試みについてもやるべきではないかというようなことについて書いてある。いずれも、これらの評価ですとか新たな活動を提案するようなお話になっているかと思います。

このような中で、全部を書くというのはなかなか難しく、例えば、田口委員が書いてらっしゃるイベントですとか、古瀬委員に書いていただいた障がい児の声を聞くというような話についてのさらなる具体的なお話ですとか、そのようなものについても書くことはもちろんできるかと思えますけれども、まとめていくと、このような意見を伺うというようなお話と評価のお話とより機会を増やすというお話の3つにまとまるかと思うのですが、このような形でよろしゅうございますでしょうか。

また、長沖委員に書いていただいている「普通に普通の本を読む人にも展開する」というお話も、書いていけるかとは思いますが、2-2「障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備」のところに書くターゲットが分散するかなと一瞬思ったのですが、書いておいたほうがいいですかね。どちらでもいいかな。

一言言えることは、例えば、現在は障がいをお持ちでない方であったとしても、加齢とともに読めなくなる方等はいらっしゃって、そういう方を含めると、普通の方でもすぐさまそういうことになっていくということもありますので、そういう意味で、「障がいをお持ちの方に対しての施策というのはそれだけではなくて、一般的な方々に対してのサービスの向上でもある」というような一文を入れておいてもいいのかもしれませんが、その一文を追加させていただいて、そういうことも含めた計画を立ててほしいというような形にして方向性に持っていかせていただければと思いますけれども、よろしゅうございますでしょうか。

そういうことで、エという形で、今言ったような普通の方々に対してのお話、「普通に普通の本を読む人」というお話は、そのまま健常者に対してのお話として書くこともできるのですが、さらに、障がいを持つ方ということは健常者との境目が曖昧であるというようなお話も含めて書かせていただくと、よりここにフィットするのかなと思いますので、そのような形で書かせていただくということでお願いできればと思います。

「今後の方向性」につきましては、頑張っている方向そのものはおかしくないということで、評価は3の方が多く、そして4の方が2人という形で、田口委員が5という評価をつけてくださっていますけれども、3の後半ということになりますので、4という形にさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

それでは、2-3ということになります。2-3「区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実」につきましては、まず、指標③「人口に占める登録者割合」、指標④「図書貸出冊数」、指標⑤「Webを活用した図書の予約貸出冊数」の3つ全て目標に達しておらず、かつ令和5年度よりも減少しているというのは残念であるということがあります。5つの成果指標は区立図書館を運営していく上

で肝となる数値とも言えるので、そういう分析等を行っていくことが必要だとまず最初に書かせていただいております。次に、一方で、「わくわくにこにこ図書の森」の活動ですとか、ホームページに区や時事に関するテーマを掲載するといった個別の施策については評価できる。さらに、誰もが居場所として快適に楽しめる空間だということを実感してもらえるアプローチ、いわゆる場としての図書館ということでございますが、これについてはあらゆる世代に向けて取り組んでほしい。さらに、今後については、国籍や言語を問わず楽しんでいただける図書館づくりも重要になるというようなことがまとめてあります。

このような形でまとめていただいておりますけれども、いかがでございましょう。このような感じでよろしゅうございますでしょうか。

ちょっと悩ましいところはありまして、近年、日本における図書館の図書の貸出冊数は全国的に横ばいもしくは減少傾向にあるというような状況を受けて考えた場合、区立図書館における図書の貸出冊数そのものは、もちろん減っているということにはなりますし、また、10万冊以上、20万冊近い減少であるということを考えると決して望ましいお話ではないわけですが、多分、そのこと自身は物すごく大きな減点材料とはならないだろうと考えることはできるかと思います。その意味で、令和5年度よりも減少していて残念だということとはぜひ書いておきたいとは思いますが、それとともに、このことに関して、物すごく大きな減点というような位置づけでは取らなくていいのかなとは思ったりします。

表現としては、運営していく上で肝心な数値であるというお話であって、必ずしもこの評価に対しての肝心なお話ではないということなので、この表現でいいのかなと思っておりますけれども、そういうことだということで書かせていただくのがよいのかなと思っておりますが、いかがでしょう。

場合によっては、あまりにもそれが目立ち過ぎるお話でしたら、「これらの数値は館を運営していく上で参考となる重要な数値」というようなお話にするのも手としてはあるのかもしれませんが、表現は後ほど事務局と相談して、今言ったような形に変えさせていただくこともあるかもしれませんが、心としては、このこと自身を評価の大きな柱とするというよりは、これを使っているいろいろな頑張っている活動そのものを進めたいというような書きぶりにさせていただいたほうがよいのではないかと思いますけれども、古瀬委員、肝となる数値であるということは間違いなところですが、全国的なことを考えると言葉が強いと思っておりますので、ちょっと弱めた形にさせていただいてもよろしいでしょうか。

■古瀬委員

はい、どうぞ。期待値も込めてなので。

■原田部会長

そうですね。ありがとうございます。

表現はちょっと丸めさせていただくかもしれませんが、書く内容そのものは、今言ったように、評価値そのものは減っているということはあるかもしれませんが、居場所としての図書館ですとか「わくわくにこにこ図書の森」ですとか、そのような活動については頑張っているということで書いているということになるかと思います。

長沖委員からも、「指標③④⑤は一般的な水準だけれども、指標①②は日常的に見る実感からしても相当高い」とも書いていただいておりますので、このあたりを含めて考えますと、ちょっと高めの評価にさせていただいてもよいのかなと思っておりますので、長沖委員のお話も含めて、今のような形にさせていただければと思います。

得点でございますけれども、長沖委員の 4 が入りますと 3.5 を超えるというお話になりますので、達成度は 3 ですけども、4 にさせていただいてもよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。庁内検討委員会の評価と対立しているような、別にけんかを売っているわけでも何でもないですけども、ちょっと違う意見が出ていますけれども、4 という形にさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。全体に甘めですかね。もうちょっと厳しくしたほうがいいですかね。まあいいや、そういう形にさせていただければと思います。

次に、「今後の方向性」につきましては、レファレンスなどについては、今後、生成 AI などの利用も含めて大きく変わっていくということが十分に予想されます。それに対しての準備をやる必要があります。司書と利用者が相互にコミュニケーションが取れるということが必要だというお話があります。それから、魅力ある棚づくりについて、より頑張っしてほしいというようなお話が 2 つ目、3 つ目については、中央図書館のリニューアルを期待する。特に区民にとって一番魅力的なサードプレイスになり得るということで、従来の古いイメージを覆すような空間づくりをしてほしいというようなことが書かれています。

これら全て、各委員に書いていただいた、今後変わっていくということに対応した、きちんと頑張っしてほしいというお話であり、長沖委員からも、場の組み替えというようなものを行う現在の施策と並行して、場としての図書館の使い方に関しても目配りをした空間を考えてほしいというようなお話を書いていただいております。皆さん同じようなと申しますか、特にウに上がっておりますような「堅い、暗い、古い、静か」というイメージを覆すような空間づくりをきちんと考えてほしいということが書いてあります。これらは区が今考えておられる方向性とも一致しておりますので、このまま生かさせていただいて、方向性についても一致するということで 4 評価とさせていただきます。

■長沖委員

反省、2 点をつけているので、4 点ぐらいにしようと思います。そのところは 4 に変えてください。

さっき言った 1-3 と 2-1 で同じことを申し上げたのですが、来ている人と来ていない人の価値観は、僕は分断論を取っていて、連続線上論ではないのです。図書館員が図書館に見学に行って「こんないい図書館があったよ」と言っつつくっていたら、その分断は切れたままだと思っているのです。なので、じゃあ、ほかに居心地がいい顔をしている人はどこにいるか。もしかしたらスポーツセンターかもしれないし、ゲーセンかもしれないし、カフェは図書館に近いけれども、公園かもしれないし、どこにいるか分からないわけです。そういうものを見学なり視察なりしていますかということが、ここからは表れていないように思えたので、質問にも出し、2 にもしたのですけれども、ちょっと僕だけ浮いていたので、やばいなと思って。

■原田部会長

このコメントを読んでいて、2 だとは思わずに、4 だと思い込んで読んでいました。

■長沖委員

4 です。

期待としては、足立区だけではなくて、仕事上、結構、誰かと一緒に見学に行くということはめちゃくちゃあるのですけれども、自分が図書館人なのに、みんな図書館に行こうとするのです。あほかと思ひまして、「せっかく来ているのだから、違うものを見てください。ホテルを見に行ったらどうですか」みたいなことをしない傾向があって、それはちょっとつについて、図書館は図書館で今

新しい計画が進んでいると思うので、何か指示したほうがいいかなと思いました。でも、4です。

■原田部会長

ありがとうございます。

高い評価を頂いたということで、皆さんの評価は4か5ということで、4にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

3に入るのですが、あと2つなので進めてよろしいですかね。では、3-1と3-2を進めさせていただきたいと思います。

3-1「読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援」につきましては、現在の指標①と指標②ともに実績値を上回っており、実際に読み語り講座に来ていただいた方の中で読書推進活動に参加してくださる方、それから図書資料の団体貸出、ともに実績値を上回っており、評価できるということになります。また、新規の学校図書館ボランティアの養成、スキルアップ講座等の実施につきましては、十分に発展性があり、効果を上げていると評価することができると思います。「おはなし会」が未実施の児童館などに対するボランティア人材の派遣も効果的だという評価もされておりまして、様々な人材を養成しようとしているということが一定の成果を上げているということを皆さん評価されているのかなと思います。

長沖委員からも、この評価そのものについても、これがよかったのだというようなお話も書いてありますし、皆さん全体として良い評価を書いていた意見をそのまま書かせていただいているという形になりますけれども、このような形でまとめさせていただいてよろしいですかね。

また、評価につきましても4か5、長沖委員は3と書いてありますけれども、4か5ということで、4の評価にまとめさせていただくということでよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

また、「今後の方向性」ですけれども、読み聞かせ講座やボランティア講座の引き続きの推進ですとかブラッシュアップ、さらには、より多くの方に来ていただくような周知・広報活動その他や、SNSやホームページなどのお話だけにとどまらない、PTAなども通じたような積極的なアプローチ、さらには、ボランティア人材や団体の活躍を区がコーディネートしていくという役割そのものについても書いていただいております。

長沖委員にも書いていただいておりますように、読書を好む層と同じ層であるというお話ではなくて、いろいろな層に広げていくことが重要だということが書いてありますし、また、書店等の巻き込みというようなお話に関しましても書いていただいているという状況になっているかと思います。

このようなお話、イのところに、地域活動だけではなく、書店等も入れていただく形がよいのかと思いますけれども、そのあたりを追加させていただく形でまとめさせていただくということでよろしゅうございますでしょうか。

これについても、皆さん同じ方向を向いているということで、長沖委員は、悪い評価、方向性は2と書いてありますけれども、もうちょっと高い評価にさせていただいてもよろしいでしょうか。

■長沖委員

はい、上げてください。

■原田部会長

後ほど、それは事務局のほうに伝えていただくとしたしまして、トータルいたしますと4ということでまとめさせていただくということでよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

す。

それでは、最後の項目になりますけれども、3-2「読書活動推進のための多様な連携と協創の推進」につきましては、「ぷちスポ」、ぷちシリーズで始まりますように、文化・芸術・スポーツとつなぐ取組はよいと思います。また一方で、割合は低くないものの、目標達成に至っていない状況についてはもう少し考えてほしい。アウトリーチ事業は評価できるお話であり、頑張ってやってらっしゃるということについても評価したいというお話になり、また、3つの対応事業に関しましては、「新規事業を含めAを達成している」と書いてありますけれども、頑張ってやってらっしゃるということについても評価できるとまとめていただいております。特にアウトリーチ活動については、いろいろな協力が必要になりますけれども、それらがきちんとなされているということについても、皆様、高く評価していただいているということになるかと思います。

中野委員からは、指標①については、去年よりも減っているというお話があり、令和8年の目標値もまだ達成できていないところは残念だということはお話ですが、全体としては高い方向を向いて動いている途中であるということをお話して、このような形でまとめさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

評価そのものも、皆さんからは、3、4、5と分かれてはおりますけれども、平均して4点という形になっておりますので、これも4とさせていただければと思います。

また、「今後の方向性」につきましても、参加意欲をかき立てるようなイベントを引き続きやっていただきたいというお話ですとか、または、そのために物すごく労力をかけるということではなくて、工夫を行うことで効果的に連携するということをお話してほしいというお話、また、本を中心とした活動についても考えてほしいというお話ですとか、または環境の整備というようなお話が上がっているかと思います。

長沖委員に書いていただいたお話に関しまして、この利用者層の関心と時間をスポーツや文化と取り合うということではなくて、それらをハイブリッドできるようなものが望ましいというような書きぶりで書いてございまして、それらの心は今書いているものとほとんど同じかなと思います。なので、このア、イ、ウ、エ、オの4つを書かせていただくという形で「今後の方向性」についても皆様方の書いていただいたものと考えさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

これらについての評価につきましては、3、4、5と分かれておりますけれども、トータルして4という形になりますので、4評価という形でまとめさせていただければと思います。よろしゅうございますでしょうか。

本当に物すごい勢いでしゃべってしまって、皆さんのほうからは口を挟みにくかったところもあるかと思います。誠に申し訳ございません。議論の足りない点もいろいろあるかと思いますが、施策1-1から施策3-2まで9の施策につきまして意見交換させていただいたということですが、事務局のほうから、さらに補足意見等はございますでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ご議論ありがとうございました。

長沖委員からご質問いただいているところについて、若干補足をさせていただきたいと思います。先ほど、ご発言の中でも触れていただきましたけれども、図書館以外の施設を見るべきだということで、まさに我々もそのように感じたところでございます。

これまでも、図書館以外で本が置いてある施設は、皆さんご存知の方もいらっしゃるかと思いま

すが、「まちライブラリー」というような施設があつて、そこには視察に行ったことがあるのですけれども、逆に言うと、そこぐらいで、あまりほかには行ったところがないというのが事実でございますので、少し目を広げていきたいと思っております。

項番 4 の施策 3-1 のご質問ですけれども、こちらで頂いたご意見もそのとおりであると感じておりますので、まだ開拓できていない部分でありますけれども、こちらにつきましては新しい計画を策定する中で少し考えていきたいと思っております。

項番 5 につきましても、民間との連携という中には書店を明示的に加えるべきというご意見も、昨今の流れを踏まえやすと避けられないところかと思っておりますので、こちらも新計画をつくる時には検討させていただきたいと思えます。

そうしましたら、いろいろ部会長のほうで整理いただきましたので、また事務局のほうで本日のご意見を踏まえて内容に反映させていただいて、また部会長にご確認いただければと考えております。

事務局の補足は以上でございます。

■原田部会長

ありがとうございます。

今お話がありましたように、推進委員会の評価につきましては、今のものも含めまして、各委員から頂いた意見をもう一度読ませていただいて、細かな微調整等をさせていただいた上で各委員のほうに共有させていただき、確認していただいたものを次の全体部会のほうに出していくということを考えたいと思えます。

私、次の全体部会、どうしても時間が合わずに出席できませんけれども、それまでにきちんと事務局と打合せをした上で伝えていただくように準備を整えますので、何とぞご理解いただければと思えます。よろしくお願いいたします。

第 3 回部会につきましては 9 月の末に予定されておりますけれども、それまで時間がございますので、もし何か追加でこれを入れてほしいという意見がございましたら、ぜひ、さらにご意見を出していただければ検討させていただきますので、何とぞよろしくお願いいたします。

第 3 回の全体会のほうで見ていただいた上で最終決定というような形になろうかと思えます。

どうもありがとうございます。何か追加で今しゃべっておきたいこと等はございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

先ほど追加で机上にお配りをさせていただいた資料について、簡単にご説明をさせていただきますと思えます。

机上に 2 つ置かせていただきましたけれども、1 つは「あだち読書通帳」の現物を改めてお手元にお配りをさせていただきました。古瀬委員のほうをご覧になりたいということで、お配りをさせていただきましたけれども、古瀬委員、何かご意見等はございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

■古瀬委員

中身で書いたのですけれども、親子用とお子さん用があるので、大人が持ちたくなるような大人用があれば、私は割と紙で持っていたいのです。「よかった」とか感想を書いて、いつどのような本を読んだのかということがアナログで見られるのもいいかなと思って希望で書いたのですけれども、もし余裕があれば、大人用もおしゃれなものを作っていただけたらと思えました。それで参考に見たかったのです。大人も使えるのかなと思ったので。

■原田部会長

こっちが使えますかね。ちょっと厳しいかな。
ありがとうございます。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

もう一点、補足資料でございます。A4 横のホチキス留めの「旧こども家庭支援センター等跡地について」という資料をお手元に配らせていただいております。

お寄せいただいたコメントの中で川村委員からご紹介いただいているものになるのですが、今、足立区のほうで、綾瀬駅の東側のほうに、もともとこども家庭支援センターという子ども関連の施設があったのですが、今は学校の仮校舎になっているのですが、そちらを令和 11 年頃に整備しまして人が集える憩いの場所をつくろうということで動いております。その中で 1 つキーワードになっているのが、本というものが 1 つテーマになってくるのではないかとということで、今度、8 月 31 日にも、意見交換会ということで地域の方が集まって意見交換をするのですが、こういった動きもあるということでの情報提供になります。

ここは、本を置いたとしても、公立の図書館とはまた異なる、居場所というようなスペースで整備をしていくようなイメージになりますので、ご参考までにご覧いただければと思います。

私からは以上です。

■原田部会長

ありがとうございました。

3 読書分野の区民アンケート調査票について

■原田部会長

それでは、評価につきましては、また何かございましたら追加させていただくとしまして、一旦、以上とさせていただきます。続いて、次第の 3「読書分野の区民アンケート調査票について」のお話をしていきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、事務局の大久保からアンケートについてご説明をさせていただきます。

お手元に、資料 1「第 1 回読書部会における主な意見及び今後の方針」と資料 5「区民アンケート調査票（16 歳以上用）（案）」をご用意いただいてもよろしいでしょうか。

本日、私のほうからご説明させていただく内容ですが、前回、アンケートの素案をご提示させていただいて、数々ご意見を頂いたところです。そちらのご意見を踏まえまして再度修正した案を本日をご用意しておりますので、ただ、申し訳ございません、頂いたご意見を全て反映できているわけではなくて、残念ながら盛り込めていないご意見もございますので、一旦、本日、事務局としての修正案としてお示しをさせていただいて、「いや、そうは言っても、やっぱり、ここは盛り込むべきである」とか追加のご意見ですとか、何かあれば、本日、意見交換をお願いできればというところです。

では、ご説明させていただきます。資料 1 の 1 ページの項番 8 から順番にご説明させていただきます。

こちらは追加項目のご意見で、「居住年数」を追加すべきというご意見を頂きました。大変申し訳ありません、調査票が「区の回答・今後の方針」とずれておりまして、結論としては、入れる方向で調査票のほうを修正させていただいております。大変失礼しました。

具体的には、資料 5 の 2 ページをご覧ください。問 3 に居住地をお尋ねする質問があるのですが、そこに「居住年数」ということで記述していただく欄を設けております。

前回、古瀬委員から頂いたご意見では、5 年ごとぐらいで区切った選択肢というご意見も頂いたのですが、別で選択肢を増やすと項目数が少し増えてしまうかなということで、1 つの案として「居住年数」をこういった形で入れるということでお示しをしております。

続いて、資料 1 をおめくりいただいて 2 ページをご覧ください。項番 9 になります。

問 5 の「18 歳以上の子どもがいる」という選択肢は、「非常に分かりづらいのではないか」「つけるのに迷ってしまう」というご意見がありましたので、質問自体を、18 歳未満という形、18 歳以上のお子さんは除いた形の質問にしたいと思っていまして、「18 歳以下の子どもがいますか」という質問にして、18 歳以下のお子さんがある場合の選択肢に変えさせていただきたいと思います。これに伴って「18 歳以上の子どもがいる」という選択肢はなくなりますので、そのように整理させていただければと思います。

続きまして、資料 1 の 10 番と 11 番をまとめてご説明させていただきます。こちらのお子様アンケートですが、調査票のほうではなくて、こちらのほうでご説明させていただければと思うのですが、お子様の自己肯定感に関するような選択肢に関して表現を修正してはどうかということで高祖委員からご意見があったのですが、前回の部会の中でもご説明させていただきまして、衛生部の調査で使用している文言で統一をしたところがございまして、直近の衛生部の調査も確認したのですが、令和 6 年度の調査のときも同じ文言で変えておりませんでしたので、もし差し支えなければ、同じ文言のまま、事務局案を変更せずにやらせていただければというご提案でございます。

資料 1 の項番 12 はご意見ですので省略させていただきます。

13 番は田口委員からご意見がありましたが、課題図書を除くする必要はないのではないかというご趣旨のご意見だったかと思いますが、他の調査等を確認しまして、今回、課題図書も含めた形でということで、課題図書を除くということは削除したいと思います。除外するパターンと除外しないパターン、様々あったのですが、一応、広く読書を捉えるということで、今回、削除をさせていただきました。

14 番になります。「本を読まなかった理由」で「近くに図書館がない」という選択肢を追加してはどうかというご意見でしたが、申し訳ございません、こちらは追加しない方向でいかがかと考えております。理由としましては、足立区には図書館が 15 館あって、一定程度充実しているというスタンスで進めてまいっておりまして、例えば、ここで「近くに図書館がない」とお答えいただいた方に対する施策が区としてはなかなか展開しづらいのかなということで、この選択肢については追加しない方向でと考えております。

資料 1 の項番 15 になります。電子書籍に関するところで、どのような電子書籍が求められているのかという質問を加えてはどうかということで、こちらは中野委員からのご意見だったかと思いますが、項目数の関係で、別途調査させていただく形でいかがかと考えております。

先ほどのご議論の中で電子図書館のターゲットの拡充というお話もありましたので、そのあたりと関連させて、別途確認をしていければと考えております。

資料 1 をおめくりいただきまして 3 ページをご覧ください。項番 16 になります。「気になった記事を読む」という選択肢を追加してはどうかということで、こちらは追加する方向で検討してございます。

資料 5 の 8 ページをご覧ください。調査票のほうになります。一番上の問 19 の 8 番のところに

「気になったネット記事を読む」ということで入れさせていただきました。こちらについては子どものアンケートにも同様に追加したいと思っております。

資料 1 の項番 17 になります。図書館の利用状況を問う項目で、「利用していない」と選択した方にサブクエスチョンとして利用していない理由を聞いてはいかがかというご意見を頂いております。

具体的には、資料 5 の調査票の 9 ページをご覧ください。問 25 の選択肢の最後、16 番の「利用したことがない」に関するサブクエスチョンかと思いますが、大変申し訳ありません、こちらはまだ検討中ということで、今はまだ結論が出ていないところになります。もし本日の意見交換の中でも追加で何かご意見があれば賜れればと思います。追加したいところなのですが、いろいろ項目数が増えてきているところで、まだ検討中というところでございます。

資料 1 の 18 番になります。居心地のよさについて、理由を問う項目を追加してはいかがかということで、こちらは追加する方向としたいと思っております。

資料 5 の 10 ページをご覧ください。調査票のほうになります。問 26 に、居心地が「悪い」と選択した方に理由を問う項目を入れさせていただきました。居心地が「いい」という方につきましては、それ以上分析をしてもあまりというところもあるかと思っておりますので、「悪い」という方に理由を聞いて、そこを今後の課題と捉えていきたいと思っております。

続きまして、資料 1 の 19 番になります。「図書館職員の相談のしやすさ」のところで、追加の選択肢として「行くけど相談したことがない」ということでご意見を頂きました。頂いたご意見を踏まえまして、質問を再度整理させていただきました。もともと、「はい」「いいえ」「わからない」「行くけど相談したことがない」という 4 つだったのですけれども、改めて整理したときに、例えば、「行くけど相談したことがない」ですとか「行かないのでわからない」ということも、突き詰めていくと「いいえ」ですとか「わからない」の中に大きくは入ってしまうのではないかと。そうすると、回答する方が分かりづらかなということ、少しシンプルに分けさせていただきました。

続きまして、項番 20 になります。満足度について、「はい」「いいえ」だけではなくて、もう少しレベルを分けて聞いてはいかがかということで、問 28 を 5 段階に修正させていただきました。

「はい」「いいえ」だけではなくて、「とてもよかったと思う」「よかったと思う」「どちらでもない」「あまりよかったと思わない」「よかったと思わない」という形で分けさせていただいております。

続きまして、21 番になります。「あってよかったと思いますか」のほかに、図書館の推奨度、お勧め度を聞いてはいかがかというご指摘があったかと思うのですけれども、こちらについては「図書館があってよかった」というもとの質問のままとさせていただければと思います。ちょっと事情がございまして、今回、足立区の図書館のアクションプランをつくらせていただいたところで、一番大きな指標として、計画の最終成果指標を図書館があってよかったと思う人の人数ということにさせていただきましたので、ここは計画との整合性の関係でそのようにさせていただければと思います。

資料 1 の最後の 4 ページをご覧ください。22～24 番について頂いたご意見につきましては、アンケートに関連して頂いたご意見ではあるのですけれども、事務局としましては、今後の計画策定の中で、施策ですとか事業ですとか、もっと大きなところでは計画の目指す姿ですとか、そういったところを議論する際に取り上げるべき項目ではないかということで、特段アンケートのほうには反映はしていないのですけれども、今後、引き続き議論をさせていただければというところでございます。

長くなりまして申し訳ありません。事務局の修正案は以上となりますので、こちらについて、禍不足ですとか追加のご意見ですとかを頂ければと思います。

■原田部会長

ありがとうございました。

今、事務局のほうからアンケート項目について説明がありましたけれども、最後に説明がありましたように、特に 21 番について説明がありましたように、アンケート調査は継続して行っているものなので、前との比較を行わなければいけないというようなもの、特に今回の場合はアクションプランの成果との比較を行わなければいけないということで、変更できるものとできないものがあるというお話にはなります。したがって、全て変えるわけではありませんけれども、多くの意見について、いろいろ反映していただいたという形になっているかと思います。

そうは言うものの、まだ聞きにくいものですか、もしくは、中途半端といえば中途半端ですが、そういうものもあるかもしれませんし、何かご意見等がございましたら、まだ修正できる余地はあるかと思うので、意見交換の中でいろいろなご意見を頂ければと思います。ぜひお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

大変申し訳ございません、訂正させていただいてよろしいでしょうか。

大変失礼しました。資料 1 の 3 ページ目、項番 17 をご覧いただいてもよろしいでしょうか。「図書館を利用していない」と答えた方の理由を問うサブクエスチョンを追加させていただいております。

具体的には、資料 5 の調査票のほうの 9 ページをご覧ください。問 24 に「図書館を利用していない」という選択肢が 11 番にございますが、こちらに「理由」を入れさせていただいております。大変失礼いたしました。

■原田部会長

ありがとうございました。

ちょっと見ていただいて、お時間をかけていただければと思います。

■中野委員

中野です。

アンケート調査の問 3 の「居住年数」なのですが、足立区の居住年数ですか。「町名」と「丁目」までであると、足立区のどこのエリアからどこのエリアになったときに、どう書くのかなというのが分からないので、「足立区の居住年数」と書いてくださると悩まなくて済むと思いました。

あと、今からお伝えする問いで何が分かるかといわれているのかが分からないのですが、問 26 の居心地のよさと問 28 の図書館があつてよかったというのは、同じに、「いい」とした人は「とてもよかったと思う」を選ばれるだろうし、「悪い」と思ったら「よかったと思わない」を選ばれるのかなと思って、どういうパターンで、どういう感想を持たれて、何とお伝えすればいいのか分からないのですが、同じことを聞いているような錯覚に陥ったので、どういう使い分けで、どういう意図で 2 個を追加されたのかを聞きたいです。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

非常にご説明が不足しておりまして申し訳ありませんでした。

まず居心地のほうからご説明させていただきますと、先ほどからも出てきておりますけれども、アクションプランというものをつくって、従来は図書館に来なかった人にも来ていただけるという

ところで、居心地ということと言えますと、例えば、今までは音を出すと白い目で見られたり居心地が悪いですとか話しながら使えないですとか、そういった方々に、例えば、今後、図書館のルールを見直していった居心地よい空間をつくっていきたいというところで、それに当たって、今、実際にどのように感じられているのかということを知りたいというのがこの居心地の質問になります。

28 番の「図書館があつてよかった」というところで言いますと、単に居心地に限らず、図書館の利用目的で言いますと、例えば、今までどおり純粋に本を読みたいですか勉強をしたいですか、あとは、単に居場所として過ごしたいですか、イベントに参加する、人と交流する、様々あると思うのですが、そういったことを全部ひっくるめて「図書館があつてよかった」と思う人を増やしていきたいというのが今の足立区のアクションプランの目指すところですので、言葉だけですと分かりづらいのですが、問 26 よりもさらに大きな概念が問 28 ということでご理解いただければと思います。

■中野委員

追加でよろしいですか。

例えば、問 28 と問 24 をクロスすると、どこら辺で満足してくれているかが分かるようになるという感じですか。この質問だけだと、どういう点であつてよかったのかというところまでは分からないけれども、ほかの質問とクロスすることで分かる判断されているのですか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

今回、いろいろと追加のご質問も頂いたのですが、まさに中野委員がおっしゃるように、クロス集計で対応できる場所も幾つかあると思いますので、そのような形で進めていきたいとは思っています。

■中野委員

ありがとうございます。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

図書館サービスデザイン担当課の河合です。

おっしゃるとおり、ここの部分は設問の説明が不足しているところで、今、大久保館長のほうから補足いただきましたけれども、もう少し補足させていただくと、やはり概念的には大きいところなので、「居心地は悪いけれども、資料が充実しているからよかった」といったものも含むのですが、さらに言えば、「自分は行かないけれど、自分の子どもが通っている。だから、区立図書館があつてよかった」というようなところも含めて、本当に広く、「公共施設として区立図書館というものの存在がある暮らし、足立の暮らしがいいよね」と受け止めていただける人を増やしていくというのがアクションプランの最終目的になっているので、そこがこの書きぶりで伝わるかというところのご指摘だったのかなと思うと、どう書こうかなというところは、もう少しまなくてははいけないと思いました。ありがとうございます。

■中野委員

ありがとうございました。

■原田部会長

ありがとうございました。

今、河合課長がおっしゃったように、居心地のお話に関しては、本当は、もう少し説明があつた

ほうがいいですね。

実際に、ほかの調査を見ている、図書館という存在そのものがこの区にあることのよさですとか、もしくは、図書館というものに対してのシンパシーですとか、そういうものを評価されるような声は常に一定数存在することが分かっていて、そういうものを聞くのが問 28 なのだろうと思うのですが、一方で、問 26 のほうは居心地なので、どちらかというと、最近で言うと「場所としての図書館」という表現があるのですが、それを中心にして、大学のラーニングコモンズのような組織に近いものが公共図書館にも存在してはどうかというお話ですとか、もしくは、公共図書館で、例えば複合施設などの場合、本を持ってそこに行って、そこに長時間滞在して、友達と一緒に何かしゃべるような、もしくは勉強するようなお話ですとか、そのようなものがよく話題に上ったりします。そういうものを含めた居心地のよさというようなものについての設問なので、単純に来て本を借りて帰るだけの人ですとか、それから子どもを連れてというお話を越えたような様々なものがここには含まれていて、確かに説明は足りないかなという気はします。河合課長のほうでまだいろいろと悩んでいる、書き直していただけるのだと思いますけれども、そのような形で問 26 はちょっと追加したほうがいいのかもかもしれません。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

問 26 と問 28 の両方追加して、その違いが分かるようにということですね。

■原田部会長

問 28 は前回の調査との比較をするという意味ではあまり変えないほうがいいのかと思うと、問 26 により力を入れて変えたほうがいいのかという気はします。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

問 28 は新設ですね。

■原田部会長

これは新設でしたか。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

「追加」なので。

■原田部会長

僕の勘違いか。前と比較するのはどれだ。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

比較は問 24 かな。問 23、問 24 あたりが比較系になります。

■原田部会長

大変失礼しました。僕の勘違いです。

■高祖委員

高祖です。

今の問 26 のところで、例えば、「区立図書館を利用したときに居心地がよいと感じますか」にして、「いい」「悪い」「わからない」「利用していない」とすると、もうちょっと明確になるかなと。

何となく「図書館は居心地がよいですか」と言うと、利用していても利用していなくてもいうか、もうちょっと広く書いてしまうのかなと思うので。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ふわっとしてしまいますものね。

私も、ここを見ている、例えば「空間として居心地がよいですか」みたいな聞き方もあるのかな

と思ったりしていて、さっきの間 28 だと、図書館には直接来館しないけれども、各種サービスを受けるとかオンライン上のサービスを受ける、あだち電子図書館だけを使うみたいなきだと居心地は全く関係ないみたいなシチュエーションも出てくると思うので、「利用」と言うとあだち電子図書館のほうも含んでしまうから、「空間」という表現でもいいのかなと思ったりしたのですけれども、どうでしょう。

■高祖委員

「空間とか環境を利用したときに」みたいに入れると、もっと限定されるかなと思います。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

組み合わせで。

■長沖委員

長沖です。

問 26 の居心地というのは、空間のことを聞きたいのか、運用とか人のことを聞きたいのかということが、この質問からは最終的には分らずじまいです。だから、文案としては「区立図書館に居心地のよさを感じますか」で、1 が「空間に感じる」、2 が「人に感じる」、3 が「感じない」で、感じない理由も聞くと悪さの理由も分かるけれども、1 と 2 を分けないと何で居心地がよかったのかが分からないので、結局、有効ではない質問になりそうな感じがするのですけれども。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

確かに。

■原田部会長

なるほど。

■長沖委員

問 28 についても言ってしまうと、思ったかどうかを聞かれているので、区立図書館そのものに軸があるのではなくて、自分に軸があるのです。だから、「区立図書館のある地域、区立図書館のある暮らしはいかがですか」と聞くのです。

聞かれているのが区立図書館のことを聞かれているのではなくて自分のことを聞かれているということになるから、「よかったと思う」という思いの話になるので、ただ、それが最終的に河合さんが得たい結論かどうか分からないので、図書館のことを知りたいのか、図書館を使っている人の心が知りたいのかによって変わりますけれども。

問 26 との対比で言うと、問 26 で館そのものについて聞くとすると、館があった上での自分を聞くのが問 28 になれば、問 26 と問 28 に差が出るのでいいかなと勝手に思っているだけですけれども。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

確かに。

■原田部会長

「図書館のあるまち」、なかなか面白いですね。いいと思いますよ。

ほかはいかがでしょうか。

■川村委員

川村です。

資料 5 の 8 ページの間 21、大きな問題ではないと思うのですけれども、回答の 4「年をとって本を読むことが難しくなったから」はストレート過ぎるなという気もして、「今まで読んでいたのに、

ちょっと最近は」という、これにマルをつけるのはためられるというか、もう少し、「年齢を重ねて本を読むことが難しくなってきたから」とか、もうちょっと軟らかい表現にしたほうがご高齢の方にも優しさが感じられるのではないかなと思う意見でございます。

以上です。

■原田部会長

なるほど。

ぜひ、細かなお話でも全体論でも、いろいろと上げていただければ役に立つと思います。

でも、確かにそうなのですよ。小さい字は読みにくくなる。眼鏡を作りましたから。

ほかはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

ぜひ、このお話に関しては、いろいろと修正のためのアイデアを頂ければ頂けるほど、よいものが出てくると思いますので、何かございましたら、またご連絡いただければと思います。ありがとうございました。

まだまだ議論し足りない部分はたくさんあるのですけれども、もう4時になってまいりましたので、第2回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会読書部会をこのあたりで終了させていただきたいと思います。

計画に対する評価で随分お時間を取っていただいた上に、今日についても意見交換をしていただき、ありがとうございました。新計画に向けてのアンケート調査票につきましても、皆さんのおかげで様々な点が改良され、よりよいものになったと考えております。本日は誠にありがとうございました。

4 今後の予定

■原田部会長

それでは、最後に事務局から事務連絡をお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

長時間にわたり闊達な意見交換をいただきまして、誠にありがとうございました。

今回、私もこちらでお話を聞かせていただきまして、非常に大きなご示唆を頂いたと思っております。特に、庁内検討評価で2がついたところに外部の評価委員の皆様から4をつけていただくということは、実は過去にはあまりなくて、むしろ逆が多いパターンではございました。それについて私なりにいろいろと考えてみたのですけれども、やはり、区側はまだ、従来の評価といえますか、図書館の貸出冊数ですとか登録率ですとか、その数字だけを見て低いと2ですとか3をつけていたところが、それ以外のところを皆様に幅広く見ていただいたことで評価を4にさせていただいたということは、今後の図書館の評価方法を考えていく上でも非常に大きなご示唆を頂いたと思っておりますので、引き続きご相談をさせていただければと思います。

そうしましたら、事務局から3点ご連絡をさせていただきます。

まず、次回開催につきましては9月26日（金）午後2時からとなっております。追って開催通知で正式にご連絡をさせていただきます。

次回の会議は、全体会、文化・読書・スポーツの合同の会の3回目となりまして、先ほど原田部会長からもご案内がありましており、今年度の部会での議論を集約する会議となります。それに当たりまして、今回頂いたご意見を事務局のほうで整理させていただいて、原田部会長に最終確認していただいたものを読書部会の資料とさせていただきます。そちらが確定次第、皆様のほうにお

送りさせていただきます。

ご案内の 2 点目になります。本日の会議録につきましては、事務局にて案を作成いたしまして、皆様にご確認をお願いしたいと思います。皆様のご確認が済み次第、ホームページのほうに掲載をさせていただく予定です。

3 点目、最後となります。本日お車でお越しの方につきましては、駐車券をご用意しておりますので、係の者までおっしゃっていただければと思います。

事務局からの事務連絡は以上となります。本日は誠にありがとうございました。

■原田部会長

先ほど申し上げましたように、申し訳ございませんが、次回、私は出席できませんが、まとめていただいたものをお話しいただき、また、皆様のほうから何かございましたら補足いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。